

NEWS LETTER

SEIGAKUIN NEWSLETTER

& Seig

No.

271

Sep.2018

特集

道具としてのICT



CONTENTS

01 & Talk [聖学院のICT]

05 focus-ICT [聖学院小学校]

06 focus-ICT [女子聖学院中学校・高等学校]

07 focus-ICT [聖学院中学校・高等学校]

08 focus-ICT [聖学院大学]

09 在校生の活躍 卒業生の活躍

11 Seig NEWS

14 Our Mission

15 聖学院歴史探訪

それぞれの教育現場では、ICTをどういうものとしてとらえていますか？

池内 まず小学校の環境面の話でいうと、4～6年生が一人一台iPadを使っていて、1～3年生はShared iPad（共有iPad）という仕組みで擬似的に、一人一台を実現しています。iPad採用は、どのように学習に取り込んでいけば効率的になるか、次元の違う新しい知見や教育方法が可能になるかという点からスタートしたのですが、実は、新校舎を作ったときに、コンピュータ教室が作れなかったということが大きく影響しています。正直、新校舎が竣工されたタイミングで良い方向に進みました。iPadであれば、教室でやってみよう、と言えばすぐに出来る。普段の子どもたちのパツと思いついたひらめきからそのまま、すぐに関連事項を調べられる。大変利便性に長けています。これはコンピュータ教室では出来なかったことです。何よりiPadを使う事で、普段出来ないことが直感的に出来るようになる点、そのテクノロジーこ

聖学院の ICT 教育とテクノロジー

& Ta

池内 清

聖学院小学校 教諭
学校法人聖学院 情報センター・副センター長

2015年、小学校の新校舎を建築した際に校舎内に無線LANを通し、各教室にプロジェクタ、AppleTVを配備、iPad、Macを普通教室で接続できるように校舎内をデザインした。1年生から3年生はShared iPad（共有iPad）、4年生以上には1人1台のiPadを持たせるなどICT教育環境整備にチームで取り組んでいる。2017年にAppleが認定する教育分野のイノベーターであるADEに認定される。1990年代に登場したLC520以来のMacユーザーでもある。

そ魅力的です。インターネット（以下：ネット）も密接に関わってきますが、小学校では『表現力を高める』という一つの大きな目標があります。我々としては、ICTをその「表現力を高めるための一つのツールである」と位置付けています。最近はプログラミングも出てきているので、そちらもiPadでできるのではないかと考えています。

女子聖学院中高では、ICTをどういった部分に使っていますか？

松尾 一番使っているのは電子黒板ですが、高校の生物の授業では、環境問題をテーマに、グループごとに自分たちで調べて発表するというのもしています。使っているのは学校にある貸出用のiPadや各自のスマホです。必要な情報を探し、入手した情報をまとめて発信することを通して自身の考えを深めるプロセスに使っています。また、検索の仕方について、効率的な使い方だけではなく、ネットでは誰も

が簡単に情報を発信できるので、一見センセーショナルで目をひくような情報でも、発信元は誰か、信憑性は高いか、常に考えるよう伝えていきます。生徒の発表の中でも情報の出自のはっきりしないものを見かけます。情報が溢れているからこそ、その見極め方を自分たちで身に付けていって欲しいですね。

では、中高男子のICTの目標についていかがでしょう？

内田 情報機器備品の環境面では、全館で使用可能な貸出用のiPadがあります。ただ、生徒は皆、スマホを持っている訳だし、それを使えば良いと僕は思ってます。学内で協議してもらっているので将来的には可能になるでしょう。スマホ利用に少し時間がかかると思うのは情報リテラシーの部分をきちんと教えたり、生徒をコントロールするのが難しいからです。結果、ICTやその能力を学校が制限してしまっています。実際は生徒自身が自分でコントロール出来ますし、出来な

1k iPad、電子黒板、学習アプリなど教育現場でも様々なICTが使われつつあります。ただ単に便利ということだけではなく、ICTを取り入れるとは、教育にとってどういう意味を持つのか？聖学院小、聖学院中高、女子聖学院中高の先生方にお集まりいただいて話を伺いました。

松尾 知実

女子聖学院中学校・高等学校
理科教諭

内田 真哉

聖学院中学校・高等学校
技術科主任 中学3年担任 21教育企画部副部長
LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと
教材活用トレーニング修了認定ファシリテータ

東京都出身。修士課程中に母校の都内女子校で非常勤講師を務めた後、2015年より女子聖学院中学高等学校理科教諭として勤務。主に中学校の生物分野の授業を担当。授業ではiPadで動画や最新研究を紹介したり、生徒に実験の動画を撮影させたりしている。

1976年柏市生まれ。聖学院高等学校第88回卒業。在学中は山岳部とサイクリング部（現在廃部）に所属。大学と大学院では森林について学んだ。東京都の特別支援学校で教員をし、その後公立中学校、2012年から聖学院中学高等学校で教壇に立つ。レゴブロックを使った教育方法や入試について取り組む。

いだろうと決めつけず、子どもの価値観に落とし込めば絶対うまくいくと思っています。

そうすることによって「リテラシー」も身につきますし、創造力を含めてクリエイティビティの高い子たちは多いので、その力を伸ばしていくこともできます。

目標としては、「クリエイティビティ」と「リテラシー」の部分ですね。

女子聖学院中高は、スマホを解放しているというお話ですが？

松尾 女子聖学院中高では、普段、毎朝すべてのスマホを回収し、放課後返却しているのですが、授業で必要な時には一時的に返却しています。勝手の違うiPadだと上手く出来なかったり、貸し出された機器のためにデータを紛失することもあるからです。一番使い慣れているスマホを必要に応じて効率的に使っていく方が良いと思います。

内田 そもそもツール自体が2年ごとに変わっていくわけですから、その都度学校が莫大な費用をかけなくとも、子どもたちが持っているものを使えば良い。無駄なことにお金をかけ過ぎる。

一同 （笑）。



池内 学生がネットの情報をそのままコピペしてくる状況に何か対策はありますか？

松尾 必ず参考文献の記載を求め、本人の理解度を確認しています。自分で調べていれば、質問されても意味や意図を答えられますが、コピペでは、記述通りのまましか答えられませんから。

内田 僕は、全部手書きでなければレポートを受け取りません。手書き

に起こす場合、参考文献からまとめて膨大に文章を取ってしまうとまとめようがなく、結局は、自分の言葉で置き換える方法しかありません。中学生でやっておかないと高校でコピペばかりになってしまうので。

なぜ本を読まなくてはならないか、を説明するのに、本とネットでは根本的に段階の踏み方が違う話をしています。本を出すには編集者がいて、情報の根拠が明確であるし、企画が通らないと出版されない。だからこそ本の信頼度は相対的に高くなる。

池内 だからこそ資料をネットだけで集めずに、書籍や文献に当たる必要がある。メディアリテラシーはキチンとやっておかないと、非常に危険な問題も出てきます。



ICTを使った授業への生徒の反応はどうですか？

池内 iPadを初めて手にした小学生は、すごく喜びます。例えば、アプリで写真撮影の授業をやるとします。最初は嬉しくて仕方なく、一所懸命無駄なものもポンポン撮り始め、終いには長押しして連写したり。しかし、ある一定期間を置くと止めます。飽きるのとは違いますが、そういうツールがあることが当たり前になってくるんでしょうね。そうなってくると授業にノセることが出来る。興奮して楽しくて仕方がない初期状態が収まると、普通に使うことが出来るようになる。共同作業をする時でも、iPadで、みんなで一緒に紙に書き込みが出来たり、消したりも出来ます。他の子の書いた部分を消せるので、何で消すんだ、というようなケンカが起きる。しばらくすると、それもぱっと止まります。やがてケンカによる作業の遅れに気が付き、後からきちんと出来るようになっていく。よくiPadを使うと子どもたちが遊んでしまうという批判がありますが、実は遊ぶことは、すごく大切で、それを越えた時に、キチンと出来るところがある。そこを我々の方が見取れるかどうか

用語説明

●Shared iPad

1台のiPadのデータや設定をアカウントごとに切り替えられるiPadの機能。これにより複数人数で共有していながら、自分独自の設定で使えるようになります。

●情報リテラシー

インターネットの検索など膨大な情報の中から本当に必要としている情報を抜き出し吟味する能力のことです。

●マインクラフト

立体のブロックで描かれた3Dのもののづくりゲームです。様々なブロックで建物を作ったり探索や冒険ができ、全世界で累計1億4400万本を販売しています。

●マインドストーム

レゴで作ったロボットをPCのプログラミングで動かす教材です。レゴなので組み立てに工具や専門知識がいらず、プログラミングもアイコンの組み合わせでできる子ども向けキットです。

が大切だな、といつも思いますね。

松尾 中学生にiPadを使わせるにも、遊んでしまうのを理由に敬遠しがちですね。逆にたくさん使うべきですね。



内田先生のところでは、マイクラフトやレゴ・マインドストームをやっているそうですが？

内田 中2でレゴ・マインドストーム、中1でマイクラフトをやっていました。ずっと遊ばせていました（笑）。マイクラフトはPCですが。

池内 マイクラフトは小学生にも人気ですよ。

内田 空間認知能力を身に付けるのには、小学生にはたいへん良いと思いました。中学校の技術の授業をやっているのは、今の子は空間認知能力が低いということです。脳の仕組みで言うと、中学生以降は、空間認知能力が育たないの、小学生の時に育てることが重要です。難しいことをせずに遊びながらやっていけるマイクラフトは良いな、と単純に思いました。

レゴのマインドストームはプログラミングを学ばせたい訳ではなくて、論理的思考力を付けさせるためにやってます。論理立ててやっていかないと失敗する反面、何度失敗してもポジティブに作り変えられるところがいいですね。

今後、授業で使ってみたいICTのツールなどありますか？

池内 小学校では、Keynoteや新聞作り、動画などを究めていったら良いかなと思ってます。子どもたちはどうしても流行りの曲をBGMに使いたいと言うのですが、そうすると著作権があるのでどこにも発表出来なくなります（笑）。

●Keynote

PowerPointのマック版的な位置付けの、Apple社製のプレゼンテーションソフトです。ファイルをwebページ形式や動画形式など多彩な形式で書き出せます。

●Seesaw

学校向けソーシャルメディア。生徒間でフィードバックを返したり、生徒、クラス、テーマごとにソートできます。アップもコメントも教師の承認制なのでトラブルも避けられます。

動画制作はどんな力を育てるのに有効ですか？

池内 楽しいから作るというのが基本です（笑）。自分がつまらなと思ったことは子どもたちもつまらない。また動画制作によって当然表現力は高まるでしょう。動画と動画に合わせたキャプションなども使いこなせるようになれば、より高度なものが出来ますね。

内田 時間は制限されていますか？

池内 グラグラと長くても困るので、一分間の短編を作れ、というような制限は設けます。

内田 だとすれば、マネジメント力も付きますよね。小学生のうちに付けばすごいな。

池内 今年から始めているのが、子どもたち一人ひとりのポートフォリオです。作ったものを積み重ねてひとつの作品にしたいと思っていました。Seesawというちょうどいいアプリがあったので使っています。プログラミングの感想を書かせたり、絵を描かせたり、子どもたちがアクセスして、自分の名前ですりいうものをアップしていく。みんなも見ることができ、名前をタップすれば、その生徒一人の作品も集まってくる。相互評価も出来るので、結構面白いな、と思っています。自分の作ったものを残しておき、それを見せあって、コメントを付けたりも出来る。このアプリは一般公開も出来るので、親にパスワードを知らせて見せる方法もあるのですが、まだ怖くて使えない（笑）。

松尾 大学受験が変わっていくなかで、高校時代に何をやったかが重視され始めていると思います。経験が手軽に目に見えて楽しく、溜めることが出来るという、そのアプリは、中高でも特に役立ちそうですね。アプリのスキルは直接大学受験に使わなくても、過去の経験をアピールしたり、周りに公開していくことには、慣れておいた方が良いでしょうかな、と思います。



iPadを使った小学校プログラミング実践事例集

- 岳野公人、荒谷達彦、池内清、東口貴彰、堀力斗 共著
- 電子書籍

池内先生をはじめ、全国の小学校教諭4人のプログラミング実践事例を紹介した電子書籍です。小学校でプログラミングをどう教えているかを事例に沿って説明しています。指導に必要なプレゼンテーションスライドが用意されていたり、活動案に沿って授業を進めていくことができる構成になっています。

focus* (ICT)

ICTを活用した特色ある授業を紹介します



(上) iPadを使い、お互いの写真を楽しみながら撮りあう児童たち。(下) 自分たちが書いたコードで飛ぶドローンに、歓声が上がりました。

聖学院小学校

一人一台のiPad



Swift Playgrounds

Apple社が提供する子供向けのプログラミング教材です。イラスト中心のインターフェイスで、そこに存在するキャラクターを動かすコードを作る、ドローンを飛ばすなど、ゲーム感覚で学べるのが最大の特徴です。

※MetaMojClassRoom

タブレットに対応した協働学習向けのノート機能アプリです。様々なペンと色が使え、手書き感覚で文字が書け、好きなところに写真が貼れます。またクラス全体で、リアルタイムで画面共有されるのでそれぞれの端末で一斉に同じノートに書き込みができます。

学びを楽しみと思える環境づくり

「iPadを文具のように身近に使える環境を」という思いから、聖学院小学校には、わざわざ移動する必要があるコンピュータ教室がありません。そのかわり4年生以上はiPadが一人一台支給され、1～3年生は共有iPadを自分専用アカウントで使えるようにしています。

実際のiPadの使用例として、グループに分かれ、MetaMojClassRoom (メタモジ・クラスルーム) *で1枚の新聞を作る授業などを行なっています。グループでアイデアを出し合いながら、それぞれのiPadからクラウド上のノートにアクセスして自分が担当するタイトル文字、イラスト、記事などを作っていきます。小学3年生なので、友達を書いたところを消してしまったという失敗もありますが、児童同士で「アンドゥで戻ればいいよ」と教えてあって、むしろグループ活動が活発化します。

また、iPadクラブというクラブ活動でもiPadを活用しています。このクラブ活動では、簡単なコードを入力するアプリ「Swift Playgrounds (スウィフト・プレイグラウンズ)」でコーディングにも挑戦し、ドローンを飛ばす体験などを行っています。自分たちのコーディングでドローンが飛ぶと児童はかなり盛り上がるそうです。

ICTの教育環境整備に取り組まれている池内先生は次のように仰っています。

「iPadは試行錯誤しやすいツールだからこそ、その過程で何かを引き出せるような活動に使うことが重要と考えています。『何を書こうか』とか『何を伝えようか』と考えること自体を楽しんでほしいです。どんな教科であれ、何をやるにせよ、学ぶことは楽しいと思う体験を小学校時代にさせたいです。」
新学習指導要領で小学校のプログラミング教育が必修化され、学習アプリなどに注目が集まっていますが、聖学院小学校では人生の土台となる時期に、自己肯定感や学びの肯定感につながる体験を大切にしています。

女子聖学院 中学校・高等学校

クラウドと電子黒板



One Drive

OneDriveはマイクロソフト社が提供するクラウドサービスです。アップしたファイルにどこからでもアクセスできます。電子黒板と連動することで、動画などの重いデータを移動する手間もなく、どの教室でも同じ環境で授業ができます。

様々な資料がリアルタイムに使える、授業が多角的に

女子聖学院中学校・高等学校ではOneDriveと電子黒板を連携した授業を行なっています。授業例としてご紹介するのは、中学2年生、理科Ⅱの「物質循環」についての授業です。

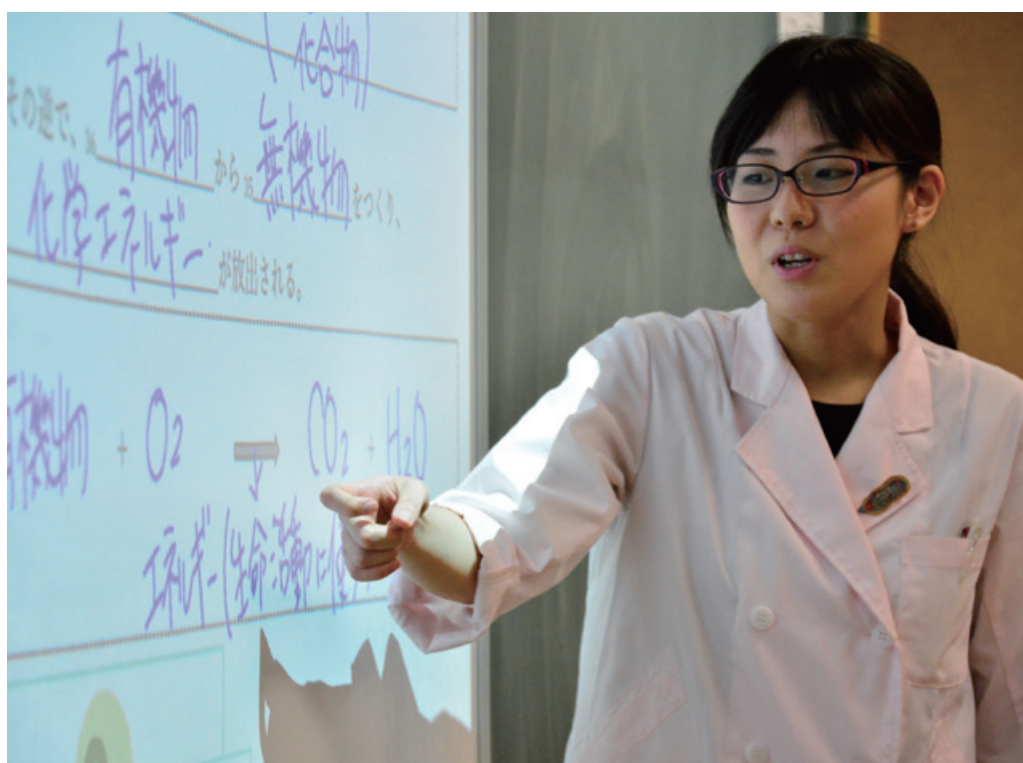
植物が光合成することで、水と二酸化炭素から酸素と有機物を作り出します。作り出した酸素と有機物は、生物が化学エネルギーを取り出すために、細胞呼吸の際に使われ、その結果生物は水と二酸化炭素を排出し、それらは植物の光合成の材料として再び使われます。この生物の営みについて電子黒板を使って説明する授業です。

空欄のある説明資料をプロジェクタで投影し、その場で空欄に重要語句を板書のように書き込んでいけるので、プロジェクタと板書の両方のいいところを活かしています。サイクルをイメージしやすいように教材動画も使用しました。これまでは、図解や写真や動画などを使って授業を行う場合、プロジェクタとPC、スクリーン、オーディオ、DVDと様々な用意が必要でした。しかし、タブレットとプロジェクタだけで全てカバーできるためメディアミックスな授業ができるようになったのも電子黒板のいいところです。

担当の松尾知実先生は「授業中の質問や、急遽説明を加えたい場合なども、ネット上から資料を探して見せたり、手に入った情報から議論したりすることができます。iBooksを併用することで大学レベルの教材や資料も使え、多角的な授業ができ、生徒の理解度も深まっていると思います。」と仰っています。効率の良い板書ができるため、生徒の表情を見ながら説明できますし、生徒も前を向いて授業を受けている時間が長くなっています。生徒同士で「笑う」「驚く」などのリアクションも共有されます。教室に一体感がある授業が行われていました。



(上)電子黒板なので、iPadの画面のように文字も書け、板書と同じようにアクセントがつけられます。(下)顔をあげている時間が長いので、教室全体に一体感があり活気に満ちています。

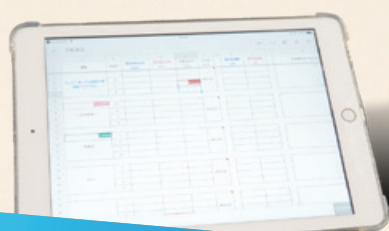




(上)中和点ちょうどまで水酸化ナトリウムを加えたいのですが、ちょっとでも多いと真っ赤になってしまいます。
(下)実験結果はiPadで入力。操作には完全に慣れてます。

聖学院 中学校・高等学校

化学の実験



Google Classroom

Googleが提供するオンライン授業のための統合プラットフォームです。提出物の管理、教材配付、確認テストなどが簡単にできるシステムで、聖学院中学校・高等学校ではリアル授業の支援や、生徒への連絡ツールとして利用しています。

作業を自動化することで考える時間を大幅アップ

聖学院中学校・高等学校では化学の実験においてiPadと「Google Classroom」というシステムを組み合わせ、実験結果の集計と生徒へのフィードバックを行なっています。

ご紹介する実験例は「食酢の中和滴定」です。指示薬としてフェノールフタレイン溶液を入れた食酢に、水酸化ナトリウム水溶液を1滴ずつ加えていき、中和点を求めます。完全に中和すると食酢がほんのりとピンクになるのですが半滴でも多すぎると一気に赤くなってしまいます。中和点を視覚的に捉え、そこから食酢の濃度を求める実験です。この実験の結果をiPadのシートに入力することで結果の集計と平均、各班での共有が自動で行われます。

これまでの実験では、結果を紙に書いて提出し、各班で共有し、それぞれ平均を出し、場合によってはグラフを作ってそれから考察に入ります。考察までの作業自体は、実験の目的ではないにも関わらずかなり時間をとられていました。しかしICTの導入により、全班の実験結果が一瞬でまとめられ分析できるので考察に集中することができます。他班との比較も容易にできるので、実験全体のイメージをつかみやすくなります。

実験を担当された宮隆允先生は「実験授業以外にもICTを活用した教材を作成していますが、その多くが授業の効率化を目的にしたものです。時間を節約できたことで、生徒の学力にあったカスタマイズ授業も実現しやすくなりました。また、今は大学でも、教材配付や提出物管理をオンラインプラットフォーム上で行っているところが増えています。大学の新しい形態の授業にも適応できる副次的効果も期待しています。」と語っています。授業の本質を見極めて、効率よく時間を使うためにICTが活用されています。

聖学院大学

WEB学生支援システム



自動証明書発行機との連携

自動証明書発行機を導入したため、GAKUENと連携して証明書も学生が自分で発行できるようになりました。教務課の人手がかからないため200円だった発行手数料が100円にプライスダウンしました。

データの一元管理で学生も教員もより快適に

聖学院大学は、様々な部分でICT化が進んでいて、学生に関する情報もデータベース化されています。しかし業務ごとに様々なサービスやシステムを導入していたためデータが一元管理されていませんでした。これを解消するため2015年から、統合事務システムの「GAKUEN」と学生支援システムの「UNIVERSAL PASSPORT (以下UNIPA)」を導入しました。これによりほぼ全ての業務を一つのデータベースで網羅できるようになりました。例えば教務課が授業情報などをGAKUENで修正すると、その情報をUNIPAのスマホアプリを通じて学生が受け取れます。学生は、成績表、時間割、出席状況の確認や履修登録など、従来、教務課で手続きが必要だった情報をスマホでできるようになりました。休講があった場合などもリアルタイムで連絡が行くので、大学まで来てから知って時間を無駄にするということもありません。

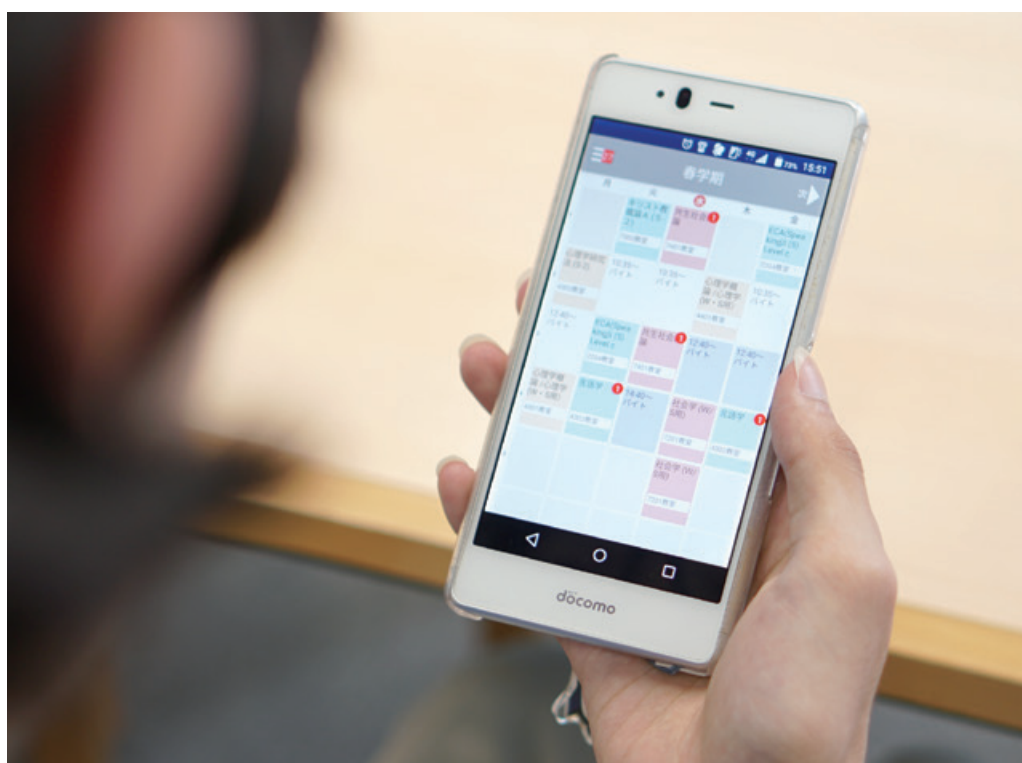
またこれに合わせてペーパーレス化を進めています。時間割と成績表を学生に紙（プリントアウト）で渡すことを廃止し、教員には、マークシートで提出していただいていた成績をUNIPAで直接入力していただくようにしました。教務課がチェックする行程が省けますし、ヒューマンエラーも減る上に、教員が海外にいても成績を更新することができます。

システム導入を担当した森清学務部長は、次のように仰っています。

「事務の負担が軽くなる分、学生への手厚いサポートが可能となりました。また、いずれは、授業の動画配信をできるようにしたいです。そうすれば大学に来られない学生もスマホで授業を視聴することができます。」
授業の動画配信が実現すれば、生涯学習という観点からも非常に興味深いコンテンツになりそうです。



(上)UNIPAのPC画面。学生は教務課に行かなくてもほとんどの自分の情報を確認できます。(下)システム導入を担当した森清学務部長





上甲 希央

活躍ファイル *No.01

聖学院高等学校 2年



杜 郁香

活躍ファイル *No.02

女子聖学院中学校・高等学校 2017年卒業(69回生)
東京大学 教養学部 前期課程 文科一類 2年

高校生直木賞の本選会に参加。 文芸同好会の代表として活躍。

在校生の活躍

今年2018年の開催が第5回目となる高校生直木賞に聖学院中学校・高等学校は3年連続で参加しています。高校生直木賞とは、高校生が選考員となり受賞作品を決定するイベントです。年明け1月にあらかじめ主催者が選抜した作品がエントリーした高校の団体のもとに送られてきます。各高校団体はその作品をすべて読んで、評価をし、点数を付けます。本選会は5月6日（日）麴町の文藝春秋本社で行われました。その本選会に聖学院中高 文芸同好会の代表として上甲さんが出場し、他24校の代表者とともに白熱した議論を交わしました。上甲さんは今年が2回目の高校生直木賞ですが、代表者として本選大会に参加するのは初めて。昨年はステージの下で見ただけで、自分の意見を言えず歯痒い思いをしたと語る上甲さんは「相手に自分の考えを言語化して伝えるための良いトレーニングになった。」と本選会での学びを振り返りました。また、「本好きの人たちと想いをぶつけあうことが楽しい。」と言う上甲さんは子どもの頃からの文学少年ですが実は理系の大学への進学を目指しています。もちろん理系でも読解力や表現力が必要で、この活動を通して培われた論理的思考力はきっと活かされることでしょう。

自分の興味を持ったことは頑張れる。 今はただ学ぶことが楽しい。

卒業生の活躍

「東大で学び一番驚いたのは、予想していた以上に優秀な人が多いこと。」と杜さんは言います。知的好奇心が強く勉強に対する集中力がある学生ばかりで、質疑応答がある授業ではいつまでも質問が途切れないのだそうです。そんな優秀な学生たちに囲まれた環境の中で刺激を受けながら、杜さんも毎日の授業を楽しんでいます。東大を進学先として意識したのは、無料公開された東大の日本史の授業を受講したことがきっかけですが、今でも歴史の授業への関心が高いそうです。好きな授業の一つ挙げるとすれば、西洋史を思想の観点から探究する「社会思想史」と答えてくれました。女子聖学院中高時代を振り返るとたくさんの良いことがありましたが、一番は素晴らしい人たちとの出会いだと言います。落ち込んだ時に声を掛けてくれた理科の先生のこと、世界史の先生にシャーロックホームズの映画を奨められたことがきっかけでイギリス映画にはまったこと、そして箏曲部の同級生は今でも二か月に一度は会うほどの友だちだということを語ってくれました。昨年夏はオックスフォード大学で学び、今年の夏は北京大学の教育プログラムに参加する予定の杜さんは、いずれは最低1年以上の長期の留学をしたいと考えているとのことでした。

まだまだあります！

Seig NEWS

学生も生徒も教員も教授も職員も
次のステップへと
日々新しい試みをしています。

聖学院大学

2018年日本留学AWARDS 大賞受賞

日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先を表彰する「日本留学AWARDS」2018年の表彰式が8月7日（火）に行われ、聖学院大学は東日本・私立大学文系部門の大賞を受賞しました。「日本留学AWARDS」は、一般財団法人日本語教育振興協会（日振協）が2012年より実施しているもので、聖学院大学は2012年から2018年まで7回連続でノミネートされています。大賞を受賞したのは2016年に続いて今年が2回目となります。



聖学院大学

聖学院大学研究者図鑑を アップしました

聖学院大学の教員にクローズアップして、その研究内容や研究実績を広く社会に周知する目的で、9月にWEB上に「聖学院大学研究者図鑑」（<https://www.seigakuin-researchers.jp>）を立ち上げました。今回のスタート時点では4名の教員を紹介しています。今後、続々と教員を取材し、紹介を行っていく予定で、人数がまとまった時点で冊子にする計画があります。少し時間は掛かると思いますが、最終的に専任教員全員を紹介することを目標としています。



聖学院大学大学院

オープンセミナー、 特別講演会の開催

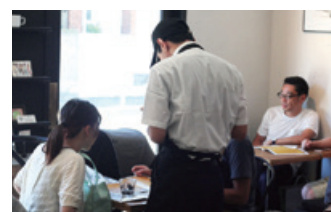
政治政策学研究科がオープンセミナーを10月6日（土）に開催します。吉川保弘特任教授の演習授業「租税法A演習I」を公開で行います。教員や院生との交流や相談ができるプログラムです。また人間福祉学研究科主催の特別講演会を10月13日（土）に開催します。「現場のモヤモヤを整理し理解する研究方法論」というテーマのもとで古谷野巨先生と林葉子先生が講演を行います。



聖学院中学校・高等学校

聖学院みつばちプロジェクト 高校生カフェ

聖学院みつばちプロジェクトの生徒たちが、日本政策金融公庫が主催する企画で「2日間だけの高校生カフェ」の出店をしました。店舗は三軒茶屋にあるKolmという本格的で洒落たレンタルキッチン&カフェ。クラウドファンディングで事前にチケットを販売し、目標の80%以上の支援をいただきました。来場者は2日間で約130名。たくさんの方々に楽しんでいただきました。この活動は9月16日（日）、30日（日）のBSジャパン「14歳からのスタートアップ」（夜10時24分～放映）で紹介されます。





聖学院中学校・高等学校

タイ研修旅行 レポート集発行

2017年度タイ研修旅行の参加生徒32名のレポートを掲載したレポート集『遠い隣人の肖像 (A5判、148ページ)』が7月に発行されました。昨年12月にタイ北部のチェンマイやチェンライを訪れ山岳民の村にホームステイするなどして13日間を過ごした生徒たちが、帰国後にテーマを決めて「問い」を設定し、仮説を立て検証していくという論理的な手法でレポートを作成しました。レポート集は11月の記念祭で販売され、その売上はタイ・メーコック財団などに全額寄付されます。

女子聖学院中学校・高等学校

セブ島マンツーマン語学留学に 行ってきました

中3～高IIの希望者を対象とする「セブ島マンツーマン語学留学」に17名の生徒が参加しました。7月30日(月)に日本を出発しセブ島の語学研修施設に2週間滞在。1日にマンツーマンのレッスンを6コマとグループレッスン2コマを受けるプログラムで、確かな英語力を身に付けることができました。また滞在中、フィリピンの国際ボランティアNGO「DAREDEMO HERO」を訪問して、現地の子どもたちと交流をしました。現地でしか得ることのできない経験が、英語力を磨くことに加えて海外研修の大きな成果となっています。



女子聖学院中学校・高等学校

チアリーディング部の活動

8月25日(土)に女子聖学院体育館にて女子聖学院中学高等学校チアリーディング部の『夏休み成果発表会』が行われました。高校生は関東チアリーディング選手権大会の結果によりJAPAN CUP2018日本選手権大会(以下、JAPAN CUP)に出場するので、間近に迫ったJAPAN CUPに向けての成果を披露しました。中学生は高校生や大切な仲間に向けてエールを送ってくれました。8月31日(金)から行われたJAPAN CUP(高崎アリーナ、群馬県高崎市)ではノーミスの演技で存分に成果を発揮することが出来ました。ご声援ありがとうございました。



聖学院小学校

サマーワークショップを 実施しました

7月19日(木)、20日(金)にサマーワークショップを開催しました。1、2年生は「親子iPad教室」でプログラミング体験やコラージュ制作を行いました。3、4年生は2日間の「理科教室」で「飛ぶタネの模型作り」と「葉脈標本づくり」。5、6年生は2日間の「英語デイキャンプ」で楽しく英語を学びました。



聖学院小学校

オーストラリアホームステイに
行ってきました

16名の児童が7月18日（水）に日本を出発して、9日間のオーストラリアホームステイを体験してきました。オーストラリアのプリズベンに滞在し、カヌーやクリケットを体験したり、日本文化紹介のワークショップを実施したり、ブーメランに色を塗るブーメランペインティングを行うなどして楽しい毎日を過ごしました。



聖学院幼稚園

夏季預かり保育

7月23日（月）～31日（火）、夏季預かり保育を行いました。この期間は特別な縦割り保育となり、年少から年長までが一緒に過ごします。今年は暑かったので、毎日子どもたちは園庭のビニールプールで水遊び。暑さが和らいだ日は外遊びを楽しみながら、年長さんが育てたトマトやブルーベリーをおやつにいただきました。通常保育とは違う為、子どもたちはいつもと少し違う表情を見せてくれました。

聖学院幼稚園

体験入園の実施

園での生活を実際に体験していただける「体験入園」を7月19日（木）・20日（金）に実施しました。子どもたちの緊張をほぐす為、まずは自由遊びで園の雰囲気に慣れていただき、ホールでは親子体操と手遊びを行った後、礼拝を守りました。子どもたちの中には、初めての礼拝だった子も多かったのではないのでしょうか。また、教師によるペープサートや絵本の読み聞かせなども行いました。この体験入園を通じて、幼稚園教師も新たな出会いの時を与えられました。



聖学院みどり幼稚園

夕涼み会開催

毎年多くの卒園生や地域の方々が集まる夕涼み会を、8月24日（金）にみどり幼稚園にて開催しました。16mm映画コーナーではディズニー映画の上映、人気の「わたあめ」「やきそば」販売、制作コーナーでは「万華鏡」「サングラス」「風車」など6種類から好きなものを選んで作ります。台風の影響もあり最後まで実施できるか分からなかった15種類の吹上花火も無事に行うことができ、子ども達の歓声に包まれた夕涼み会となりました。



聖学院みどり幼稚園

40周年記念同窓会

今年で11回目となる同窓会を7月16日（月・祝）海の日に行いました。厳しい暑さが続く中、教職員や子ども達を合わせて46名の参加がありました。家庭的な雰囲気の中で幼稚園での思い出や近況などを語り合い、改めて40年の歴史の厚みを分かち合う時となりました。お楽しみの昼食は先生たちで用意した手作り料理。食事のあとは園庭でのプール遊びもあり、子ども達の笑顔があふれる中「来年もまた来たい」と、嬉しい声も寄せられました。



Our Mission

聖学院情報センター — 事務室 — (大学キャンパス)



本部署は、ICTに関わるありとあらゆる業務をしています。駒込キャンパスの男女中高にも各1名の職員が同じ任務に就いています。PC教室の運用に必要な無線LANやサーバなどを監視したり、セキュリティ対策を施すのはもちろんのこと、システムやICT機器の使い方を学生教職員に教えることもしています。ICTを活用した業務の効率化について企画提案なども行っています。目指しているのは、世界標準に準拠した対応です。そのためには自らのスキルアップ（国家資格の取得など）も必要です。

無線LANが繋がらないとか、PCの動きが遅いなど、原因が見えないトラブルへの対応や、新システム導入に戸惑う教職員にメリットを理解してもらうなど大変なこともあります。が、「使いやすくなった」「導入してよかった」と感謝されたときには、やりがいや達成感を感じます。

学生にはぜひ在学中に、ICT（ICT機器・システムの使い方～情報リテラシー）という鎧を身につけて社会に出て欲しいと思っています。

学生の学び、教員による教育、それを支えるのが職員のはずですが、ルーチンワークに時間を取られ手が回らないのが現実です。このルーチンワークを効率化することこそICT化の大きな目的ですが、ずっと続けてきた仕事のやり方を変えるのは容易では無く、それがICT化を遅らせる原因ともなっています。しかし、そこは何とか立ち回ってカイゼンを進めていきたいと思っています。うまく進めば、それこそ本部署が不要になります。おそらく究極の理想はそうなのでしょう。

Our Mission

1. 学生にICTという鎧をまとわせる
(ICT機器・システムの使い方～情報リテラシー)
2. 世界標準に準拠した対応
3. 学生・教員・職員が本来の目的に集中できる
ICT環境作り



●STAFF

鈴木純・清水佳人
清水麻季子

●オフィス

大学図書館棟1F
聖学院中学校・高等学校事務室
女子聖学院中学校・高等学校職員室

聖学院歴史探訪

#2 聖学院をつくった人々 最初の宣教師② - ガルス -



チャールズ・E・ガルストは、元々は陸軍士官学校出身の軍人で、陸軍大尉にまで昇進した人ですが、結婚を機に軍人をやめ、宣教師になる決心をします。そして、夫人と、同じ宣教師のスミス夫妻とともに、1883（明治16）年、日本にやって来ました。

当初ガルストは、秋田や山形を中心に東北の町々や村々で伝道しますが、1890年、宣教師団の方針に従って活動の拠点を東京へ移します。そして、そこでも宣教師団のリーダーとして精力的に伝道しますが、また社会問題にも深い関心を寄せ、特に税制の改革に尽力しました。そのようにして、秋田・山形時代と同様、人びとの貧しさや社会の不公平を見過ごすことなく、聖書の教える愛を実践していったのです。しかし、多年の労苦が重なり、過労のため、1898年、46歳で亡くなりました。正に使命のために命を奉げた人生でした。

ガルストの死後、夫人がその伝記をアメリカで出版しました（小貫山信夫訳『チャールズ・E・ガルスト』聖学院大学出版会）。それによってわたしたちは、彼の信仰と働きをくわしく生き生きと知ることができます。

出典：聖学院・女子聖学院中学校高等学校 聖書科教科書編集委員会編『神を仰ぎ人に仕うー召命に生きた人々ー』改訂版、聖学院大学出版会、2014年（出典より一部変更）

学校法人 聖学院

理事長／清水 正之 院長／山口 博

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-8351

ホームページ <http://www.seig.ac.jp> E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

■さいたま上尾キャンパス

聖学院大学

・政治経済学部／政治経済学科 ・人文学部／欧米文化学科 日本文学学科 児童学科 ・心理福祉学部／心理福祉学科
学長／清水 正之 創立／1988年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-781-0925

聖学院大学大学院

政治政策学研究科／アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科／人間福祉学研究科
創立／1996年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-780-1801

聖学院みどり幼稚園

園長／山川 秀人 創立／1978年
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820 Tel 048-622-3864

■駒込キャンパス

聖学院 中学校 高等学校

校長／角田 秀明 創立／1906年
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1 Tel 03-3917-1121

女子聖学院 中学校 高等学校

校長／山口 博 創立／1905年
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-2277

聖学院小学校

校長／佐藤 慎 創立／1960年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1 Tel 03-3917-1555

聖学院幼稚園

園長／佐藤 慎 創立／1912年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2 Tel 03-3917-2725

●インターネットでの寄付のお申し込みについて

クレジットカード（VISA、MasterCard）をお持ちの方は、お申し込みから入金までご自宅等で、PC、スマートフォン、携帯電話からインターネットによるお手続きができます。下記URL、QRコードにアクセス下さい。

<https://www.seig-asf.jp/fund/>



住所変更・お問い合わせは下記までお願いします。

学校法人聖学院ASF事務局 Tel 03-3917-8352